

## 白馬村の景観整備による観光まちづくりの研究

芝浦工業大学建築学部建築学科

教授 谷口大造

### 1. はじめに

本研究は、平成30、31年度の2カ年にわたり白馬村の景観計画を策定し、観光まちづくりに寄与することを目的としている。初年度である平成30年度は、景観計画をまとめるための前段階として、景観形成要因として白馬村の「自然環境」「生活文化」「観光産業」「交通」を考察し、白馬盆地特有の空間領域や立体的な視線や視点を類型化した上で、山岳眺望・緑・水・建物・歴史文化的景観・広告・看板などの景観要素を白馬村全域で調査した。また調査を行った学生が調査合宿で白馬村の生活体験をし、村民の方々とワークショップを行うなかから、景観に対する意識や問題点を探っている。それらの調査・検証を通して、次年度の景観計画策定の骨子となる基本理念・方針、デザインガイドラインや実践プランについての検討課題を考察する。

### 2. 研究報告書の構成

第1章白馬村の景観形成の特性をつくる要因、第2章白馬村の景観調査、第3章ワークショップ  
第4章白馬村の景観－景観形成要因と景観特性－、第5章白馬村の景観－空間領域と立体的な視点・視点－、第6章白馬村の景観形成要素、第7章白馬村の景観を守る取り組み、第8章今後の検討課題と実践プラン

### 3. 調査研究成果要旨

#### 1) 地域特性調査概要

白馬村は多彩な景観特性を持ち、歴史的変遷を経て現在に至っている。その地域の特性が顕著な15地区で環境、建物、サイン、色彩と景観を構成する基本的な項目ごとに評価を行うことを目的として実施した。具体的には芝浦工業大学谷口研の学生を中心とした学生のグループをそれぞれの項目ごとに班に分け、まちなみ景観調査シートによる評価、写真撮影、地図へのプロットを行った。

景観的なポイントとなる地点ではドローンによる空撮で地区全体の景観の把握を行った。

#### 2) 景観ワークショップ概要

景観ワークショップは2018年8月26日(日)、10月28日(日)、12月2日(日)の計3回、場所は白馬村役場会議室において開催し、総勢110名を超える参加者があった。リピーター率が高く白馬村の景観に対する誇りと高い意識を持っている一方で、今後の課題としては、幅広い世代や外国人の参加が望まれ、多様な視点からの意見交換が望ましいと考えられる。毎回の景観ワークショップではテーマを設定し、班ごとの少人数によるディスカッションを通じて意見を集約し発表を行った。

#### 3) 白馬村の景観形成要因と景観特性について

「自然環境」「生活文化」「観光産業」「交通」に着目し、白馬村の各エリア、集落、地区の調査結果をもとに、どのような要因から現在の景観となり、将来に渡りどのような変化と課題が考えられるかをキーワードとなる項目を上げて考察している。